風にのって、羽ばたく。

［2018年・新春］

NIKI HEARTY HOSPITAL
広報誌 Vol.27

Take Free.
ご自由にお持ちください

そよ風のてがみ

理事長あいさつ
できごと
部門紹介
本のはなし
かんたんレシピ
［ 鶏ギョーザの和風鍋 ］

特集
「病院のプラットフォーム」
ー看護職員の役割と取り組みー

心に安らぎのそよ風を。

http://www.niki-hp.or.jp

外来診療のご案内

・受付時間／8:30～11:30、13:00～16:30 ※初めての方は待ち時間解消のため、お電話でご予約ください。
・診療時間／9:00～12:00、13:00～17:00 ※ストレスケア外来・ストレスカウンセリングは、ご予約の上ご来院ください。
・休 診 日／土・日・祝日 ※再来急患の場合は、その限りではありません。

理事長	仁木 啓介
院　長	寺岡 和廣
副院長	岩渕 龍太／宮里 哲也
医　師	天野 浩一朗／山田 良／永石 裕幸／倉元 涼子／檜村 仁美

再来予約専用
TEL.090-1779-5326、TEL.096-383-7810
＜電話予約受付時間（平日のみ）＞
8:30～12:00、13:00～17:00

診療費のお取扱いについて

［窓口でのお取扱い時間］
平 日 … 9:00～17:00
土 曜 … 9:00～12:30
※土曜日の午後、日曜日、祝日のお取扱いはしておりません。

［口座振替］
ご指定の口座より自動振替えによる、入院費・日用品代のお支払いができるサービスを行っております。定期的に来院するのが大変な方、遠方からお越しの方等、大変便利なサービスとなっておりますので、ぜひご利用ください。

［クレジット・クイックペイ］
入院費・外来診察料・カウンセリング料のお支払いが可能です。
一括払いのみとなります。分割払い・リボ払いはお取扱いしておりません。

保険証の確認について

外来…診察毎時　入院…月1回 ※窓口での提示をお願いします。

お問い合わせについて

初めての方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・TEL.096-384-3111
一般外来・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・TEL.096-383-7810
（診察予約・変更・キャンセル）　TEL.090-1779-5326
ストレスケア外来・カウンセリング・・・TEL.096-383-4679
（診察予約・変更・キャンセル）
デイケアに関すること・・・・・・・・・・・・・TEL.096-384-3151

＜医療機関・地域包括支援センター・介護施設のご担当者様へ＞
各種お問合せは地域連携室で対応させていただきます。

基本理念
ニキ ハーティーホスピタルは、患者様の心を癒し、社会で安心して生活が出来るように手助けをします。
患者様、ご家族、地域の方々に寄り添った、家庭的で心の通った医療とサービスを提供します。

ニキ ハーティー ホスピタル
NIKI HEARTY HOSPITAL
［精神科・神経科・神経内科］
医療法人仁木会
ニキハーティーホスピタル

ニキハーティーホスピタルはロアッソ熊本を応援しています。

〒862-0920 熊本市東区月出4丁目6-100　TEL.096-384-3111

理事長あいさつ

私たちが踏み出した一歩とは

Chairperson Greeting

送り出し、新たなステップへ

出逢いがあると、別れもある。様々な出逢いを繰り返しながら、皆、生きている。

人生での、初めての出逢いは、母親である。その出逢いは、子どもにとっても、母親にとっても大きな出逢いだ。母親は、子どもが生まれる前から、臍の緒を通して繋がり、子どもは、母親の鼓動を聞きながら成長し、母のストレスを共有し、成長に必要な栄養の提供も受ける。また、母親のお腹を内側から蹴ったり、動くことでコミュニケーションをする。

子どもは、どのように養育されたのかにより、成長発達や性格形成に影響を受ける。親は、子どもに対して、母親らしく、父親らしく振る舞うことで、親として成長する。親子という相互関係による絆で、家族という単位が形成される。家族は、住まいやペット、親戚や地域、学校や職場、及びそれらに関わる全ての人々や物からプラスやマイナスの影響を受ける。これら全ての部分で、出会いや別れ、また、何かを得たり失ったりする。それらは、形があるものもあれば、ないものもある。

人は、関係が深かったり、思い入れの度合いにより、別れや失ったときに喪失体験として、心に重くのし掛かってくる。まして、大切な誰かとの死別であれば尚更である。それが、突然の別れだった場合、お別れの準備が出来ていない。喪失した事実が信じられず、受け入れるのも困難で、夢の中での出来事のように捉えられる。居るはずもない、その人の気配を感じたり、声を聞くかもしれない。

失った苦しさを二度と味わいたくない無意識の反応として、「自分が気付いていたら」「私が〇〇しなかったから」と「たられば」で振り返り、自分に責任があったと、自責的になる。それは、喪失した事実を、自分のコントロール下におくことで、同じことを避けたい反応である。従って、喪失体験を受けた時に、自分を責めすぎないようにして欲しい。災害では、人ばかりではなく、家や住み慣れた地域からも引き離されることがある。生活の基盤が揺らぐことは、今の不安でもあるし、未来の不安にも繋がる。喪失体験を克服するためには、喪の作業というお別れが必要である。それは人により、取りかかる時期や、その期間もそれぞれである。

兎に角、現在と過去との間に、線を引いたり、距離を置くことで、現在の生活が左右されたり、制限されないように、まずは手当てをして、その後、それぞれのペースで、お別れの作業を行うことになる。ある人は、心の中に沢山の引き出しを作り、その中に取りあえずしまい込む。また、故人や失った何かを、アルバムとして心の中に作り、心の本棚に大切に仕舞うのも良いだろう。辛いからと、忘れ去ろうとしたり、無理に封印してしまう必要はない。自分の大切な思い出の写真として、いつまでも持ち続けて良いのである。自分を置いて逝ってしまった人に対して、感謝や怒りなどの情動を持ったり、相手に聞きたかった、伝えたかったこともあるかもしれない。思い出の場所に行けるようになると、何かが繋がるような感じがするかもしれない。時の流れに身を任せてみると、いつの日か、その別れを、新たな場所に送り出すことができたことに気付く。すると時は再び動き出し新たな自分に出逢うだろう。

平成は、31年をもって、幕を閉じる。昭和から平成の時代に移り変わった時のように、また時代が一つ前に進み、全てが過去になり、あらゆる可能性を秘めた新しい未来の幕が開けられる。

理事長 仁木 啓介

NIKI HEARTY HOSPITAL　PICKUP NEWS

大規模災害対応訓練

平成29年 6月

熊本地震の経験と教訓、これまで受講したDPAT研修や基に防災委員会で企画し、大規模災害を想定したBCP（事業継続計画）に基づく災害対応訓練を実施しました。参加した職員から数多くの意見や要望があがりました。安全安心な診療体制の維持向上のため当院のBCPに盛り込んでいきます。

東区地域連携交流会

平成29年 9月

熊本市東区の精神科病院のPSW、地域包括支援センター、九州看護福祉大学社会福祉学部の教員・学生さんと共に、地域連携に関する交流会をはじめて開催いたしました。地域包括ケアシステム構築に向けて一層連携を促進する必要性を痛感しました。本年はより多くの機関のお呼びかけしたいと考えています。

／できごと／ こんなことがありました ／

「Dr.テレビたん 医療業界就職説明会」出展

平成29年 9月

くまもと県民テレビ主催の就職合同説明会に初めて出展いたしました。予想を超え多くの方々に当院ブースにお越しいただきました。スタッフの増員のために出展したのですが、来年度就職を目指す学生の方々と直接お話しする機会にもなり、今後の当院の求人活動を見直す良い機会に恵まれたと思います。貴重なご意見をいただき大変ありがとうございました。

熊本県精神科リハビリテーション研究会発表

平成29年 11月

去る平成29年11月18日（土）に当院の作業療法士有木千華さんが研究発表を行いました。「リワークプログラムにおけるアートセラピーの取り組み」と題し、絵画療法・コラージュ療法がリワーク参加者に対しどのような効果が見られるのかを非言語アプローチの観点から考察しています。

仁木理事長が右記の書籍に執筆いたしました！

総合診療

『うつより多い「不安」の診かた』

医学書院（2017年9月号）

（著）仁木 啓介

誌上メンタリング「トラウマとPTSDについて」を執筆しました。

『催眠トランス空間論と心理療法－セラピストの職人技を学ぶ』

遠見書房（2017年10月刊行）

（著）松木 繁

当院スーパーバイザーの松木繁先生が編著されており、仁木が一部執筆しました。

特集

病院のプラットフォーム

土台

看護職員の役割と取り組み

環境と人が整っていることが大事

患者様は他院・他機関等からのご紹介や、Webでの評判、口コミ、交通アクセスの利便性など患者様それぞれのきっかけやニーズによって受診をご希望されます。患者様にとって最善の治療・リハビリ・療養のためには、環境と人が整っていることが大事ですが、病院において患者様と最も接している職種は看護職員であり、病院のプラットフォーム（土台）であるといっても過言ではないように思います。

今号では、ストレスケア病棟の役割、感染防止対策、看護教育の取り組み、看護職員の素顔について取り上げます。当院の特色は多くありますが、そよ風のてがみを読んでくださっている方々に当院の「土台」にも少しまなざしを向けていただければ幸いに存じます。

病棟ミーティング

処置の様子

職員ラウンジ

看護職員の素顔。

1病棟チーフ／看護師 江口恵介

昨年の8月より1病棟閉鎖のチーフに就任致しました。当初はチーフと呼ばれても自分の事と気付かず返事もしなかったので、親から怒られる子供のように病棟スタッフから「返事くらいしなさい」と怒られました（笑）。

自己紹介をすると「俳優の江口洋介さんと一字違いですね～」と何度となく言われ続け、今では苦笑いで対応しています。そんな、あるあるエピソードを紹介しつつ、まずは名前を覚えて頂ければと思います。因みに趣味は釣りでしたが、ここ何年かは行っていません。よってほぼ素人ですので、誰か私に釣りを・・・魚が釣れる方法を教えてください。

今後も患者様の立場に立って物事を考える事を忘れずに！各スタッフとの協力・連携を大切に！明るい病棟であること！をモットーに頑張っていきます。皆様どうかよろしくお願い致します。

ストレスケア病棟とは

個別性を十分に理解した上で、患者様と接すること。

主にトラウマに関連する疾患、うつ病等の患者様が入院加療するための病棟です。疾患や病状もさることながら性別・年齢層・ご職業等多様なことが特色であり、患者様の『個別性』を十分理解した上で接することが看護職として求められていると日々痛感しています。

病棟の1日は、6時に点灯しコーヒーを飲んだり、話しをしたり、テレビを視聴するなどして朝食までの時間をゆっくりと過ごされています。日中は、診察やカウンセリング、OT活動が行われています。また、主治医との協議のもと、社会復帰に向けて英会話などの習い事や当院から職場にリハビリ目的での通勤、治療的意味合いをもった外出外泊を行っていただいています。

スタッフの出入りが多く、慌ただしい雰囲気となることもありますが、こころの傷が一日も早く快癒されるよう、療養環境の整備と適切なケアの実践に努めています。

Bumon Introduction

・部門紹介・

リハビリテーション課

Rehabilitation

セラピスト5名、アシスタント1名で稼働しております。さわやかな緑色の制服がトレードマークです。

当院には4つの病棟があり、病棟毎に患者様の年齢層や病状がかなり異なります。私たちは一病棟を1人のセラピストが担当し、基本的には病棟毎に集団療法を行っています。

病棟毎に行う活動としてはグループワーク、手工芸、室内の運動、園芸、カラオケなどのレクリエーションがあります。合同で行う活動もあり、その時はとてもにぎやかになります。運動や季節の行事が合同の活動です。他にも必要に応じて社会適応訓練を行っております。セラピストも個性があり、得意分野が違いますので、担当病棟以外の活動にも入り、チーム内で補い合いながら患者様が健康を取り戻すお手伝いをしています。セラピストの個性を発揮できるよう今後も工夫していきたいと考えています。

かんたんレシピ

冬もぽかぽか

[鶏ギョーザの和風鍋]

材料（2人分）

A
- 鶏ひき肉……80g
- 長ネギ……1/2本
- 生姜……1/2片
- 卵……1/2個
- 醤油……小さじ1/2
- 塩・こしょう……少々
- ごま油……小さじ1

- 餃子の皮（市販品）…10枚
- 水菜……適量
- 白菜……2枚
- 人参……1/3本
- 椎茸……4枚
- 油揚げ……1枚
- 醤油……大さじ1
- 酒……大さじ1
- だし汁

作り方

①長ネギをみじん切りにし、生姜はすり卸す。
②水菜、白菜、人参、椎茸、油揚げを食べやすい大きさに切る。
③Aの材料をボールに混ぜ合わせ、餃子の皮で包む。
④鍋にだし汁、醤油、酒を入れ煮立たせ、②の具材を入れ煮る。
⑤③の餃子を入れ3分程度煮て火を通す。
★お好みでポン酢につけて

POINT

寒い季節に恋しくなる鍋料理。
今回は鶏ひき肉の餃子でさっぱりと♪ネギと生姜で体を温めます。たっぷりの野菜を使うことで、ビタミンの補給も出来ます。
風邪予防に偏りのないバランスのとれた食事を心掛けましょう。

No.002

書籍紹介

本のはなし

紹介者：　臨床心理士 浅山

BOOK

災害後のこころのケアのために

『かばくんのきもち』

絵本で学ぶストレスマネジメント①

遠見書房
（著）冨永良喜、志村治能

熊本地震発災から一年以上経ちますが、今でも揺れを感じることがあります。そんな時、つい身体が「びくっ」と反応することがあるかもしれません。主人公のかばくんも最初はそうでした。そういった災害時の心と身体の反応が自然なことであることを、海外でも災害後の支援を行ってきた著者が、小さい子どもにもわかるように教えてくれます。大人も子どもも、親子一緒にでも読んでほしい一冊です。

編集後記

今回、表紙の切っ手部分は、当院の秋祭りにてパフォーマンスいただいた、タレントの山内要さんとの1枚です。笑いの多い楽しいお祭りとなりました。次号の写真もお楽しみに！

「院内感染対策防止委員会」と「ICT委員会」

精神科病院は、施設の構造や医療的特性から易感染環境であるといえ（特に閉鎖病棟の場合飛沫・空気感染が蔓延しやすい、接触感染の温床となりうるドアが数多くあるなど）、アウトブレイクが発生しやすく、その後の対策が困難化してしまうという特徴があります。
一方で、入院患者様が罹患した場合、精神状態や自己衛生管理の側面から感染対策の理解や協力が得られにくい場合があり、他の患者様や職員への感染リスクが高いことも特徴といえます。

感染症の把握と、全職員の意識化

当院は、安全安心な医療の提供の一貫として、感染対策の確実な履行と全職員への普及啓発に特に力点をおいています。当院の感染防止体制として、「院内感染防止対策委員会」と、感染対策を実行するチームである「ICT（Infection Control Team）委員会」を整備しています。院内感染防止対策委員会は理事長をはじめ、全医師及び全部門の管理職員で構成し、事故報告や分析結果の報告、感染防止対策に関連する病院運営全体に及ぶ事項について協議検討を行っています。

ICT委員会は全部署から1名以上で構成しています。委員会の大きな目的は「感染防止のための監督監査」、「迅速かつ有効な感染対策の実行」、「感染防止対策の徹底のための職員への教育啓発」の3つの柱からなります。月2回開催し、詳細な感染発生報告、院内感染事例の把握とアウトブレイク防止策を協議検討しています。さらに、熊本県感染症情報等から情報収集を行い、流行性の感染症の把握と防止策を実践しています。ICTメンバーによる院内ラウンドを行い、全部門に30項目のチェックを実施しています。委員会で協議を重ね、平成27年にはインフルエンザ・感染性胃腸炎・急性上気道炎のフェーズ表を策定したことで、感染者へ一貫した対応が容易となり、確実に効果を発揮しています。

単なるマニュアル履行に止まらず、全職員の意識化と、確実かつ間断のない感染防止対策の実践に努めてまいります。

認知症対応力向上研修

2病棟チーフ／オレンジナース　森田晋介

平成27年度よりオレンジナースとして、年に1回の認知症対応力向上研修を行っています。オレンジドクター・ナースとは、「認知症対応力向上研修の院内講師役」のことで、その養成は、熊本県における新オレンジプランの具体的施策の一つです。

当院で行う認知症対応力向上研修では、認知症の疾患理解、認知機能障害（中核症状）から生じる焦燥・不安・暴力などのBPSD（行動心理症状）への適切な対応やBPSD体験など、実例を交えながら講義しています。高齢化が進む我が国では、2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると言われています。認知症のケアのニーズは高まる一方です。私たちオレンジナースは病院勤務者が適時・適切な対応を行い、その人の持つ残存機能を保ち、認知症高齢者やその家族がその人らしく生活出来るように関わっていくことを目標としています。当院としても職員が認知症対応力向上等のソフトウェアの充実に加え、認知症サポートチームを構成し、多職種で密に連携出来る体制づくりが急務です。入院でのケアは無論のこと、地域への貢献や啓発活動にも残存機能の維持や生き甲斐を感じる場として、病棟における活動を利用した集団ケアにも取り組んで行きたいと考えています。

高齢者や認知症の人が住みやすい社会の実現に医療者の角度から関わらせていただく所存です。

・さいごに・

昨今の看護職員の人材確保、看護教育など課題は山積しています。やがて100名に届く看護職員をまとめる者として、やらなければならないことは増える一方ですが、本年は患者様にとって有益な人材の育成と確保、看護基準をはじめとするコンプライアンスの徹底、接遇の向上に努めていきたいと思います。
タイトルにある「病院のプラットフォーム」とは、即ち患者様の回復への道の土台です。患者様が安心して回復への道を歩み、一歩一歩足跡をつけていただける土台になることができればと願ってやみません。（ 看護部長 後藤郁美 ）